

Tast Of Tsukuba Kaguraduki Stage

11/1-2

予選：1位 - 56.970

※Hercules Class コースレコード樹立

決勝：2位 - 57.250



筑波サーキット・コース2000で開催されたテスト・オブ・ツクバ KAGURADUKI STAGEにおいて、HERCULES CLASS にフクダテクニカより参戦しました。私にとって約3年ぶりとなるスプリントレース。前回スプリントレースに出場したのも同じテスト・オブ・ツクバで、当時はオーバーレーシングより参戦しており、今回のレースは個人的にも強く印象に残る大会となりました。

久しぶりのスプリントレースということ



もあり、レース前日は緊張で夜中に目が覚めてしまうほどでした。耐久レースとは異なり、一瞬の判断やミスがそのまま結果に直結するスプリントレース特有の緊張感を、久々に肌で感じていました。

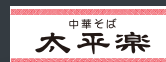
木曜日のテスト走行では、順調にセットアップを進めることができ、最終的には57秒1までタイムを詰めることができました。この時点で非公式ながらコースレコードを更新しており、予選ではどこまでタイムを伸ばせるのかという期待と不安が入り混じった気持ちで週末を迎えました。

土曜日のフリー走行では、オーバーレーシングのCBRを駆る松本選手が同じく57秒1までタイムを縮めてきており、予選

では56秒台に入れた選手がポールポジションを獲得するだろうという予想が立っていました。

予選が始まると、まず松本選手が57秒1をマークし、暫定トップに立ちました。私はクリアラップを確保するため、あえてセッション開始から約5分ほど遅れてコースインし、周囲の状況を見ながらアタックのタイミングを計りました。

1回目のアタックでは、クリアラップを確保できたものの、第2ヘアピン立ち上がりでアクセルを開けすぎてしまい、大きくウィリーしてしまいました。一度冷静になるためピットへ戻り、気持ちを整えた上で再びアタックに入りました。2回目のアタックでは無事に1周をまとめることができ、56秒台に突入。結果的にこの



Tast Of Tsukuba Kaguraduki Stage

タイムが唯一の56秒台となり、コースレコード更新とポールポジション獲得を達成することができました。テントに貼られていた紹介ボードには、いつの間にか「Best Lap R 56.9 “まだまだ”更新中!!」という書き込みがされており、オーナーからの期待を感じるとともに、さらに上を目指したいという気持ちが一層強まりました。



決勝レースでは、私自身が以前から課題としているスタートが大きなポイントとなりました。ウォームアップラップではフロントが何度も浮いてしまい出遅れてしまいましたが、その中でコツを掴み、本番ではリフトアップし始めたタイミングで早めに2速へ入れ、その後はアクセルオンで加速する方法を選択しました。



その結果、加賀山選手に続く2番手で1コーナーを通過することができ、これまでのスプリントレースの中でも納得のいくスタートを切ることができました。

しかし、1周目の最終コーナーでミスをしてしまい立ち上がり鈍り、2周目の1コーナーで松本選手と國川選手に抜かれて4番手まで後退してしまいました。その直後、國川選手が2番手に浮上



し、このままトップを奪われてしまうと引き離されると判断。すぐに松本選手を第2ヘアピンでパスしました。さらにその直後、國川選手が1コーナーで加賀山選手を抜きトップに立ち、引き離し始めました。

これ以上、國川選手に離されないためにも、加賀山選手を早く抜く必要がありました。しかし、車両性能の差もあり、ブレーキングの深さと加速でなかなか抜くことができず、数周を要しました。勝負所と決めていた1コーナーで思い切って仕掛け、ややオーバーラン気味になりながらも立ち上がりでアクセルを開け切り、なんとか前に出ることができまし



た。

その後、必死に國川選手を追いかけ、残り2周ほどのところで差を詰めることができました。勝負できるとすれば第2ヘアピンの進入だと考えていましたが、國川選手もこちらの接近を察知しており、的確なライン取りで隙を与えてくれませんでした。結果的に最後までそのまま抑え込まれ、2位でチェッカーを受けることとなりました。

最後に抜き切れなかった悔しさは残りましたが、非常に濃密なバトルを展開でき、観客の皆さんにもレースを楽しんでいただけたと感じています。久しぶりのスプリントレースで、自身の課題と手応えの両方を再確認できたことは、今後のレース活動において大きな収穫となりました。

